

ふくし直治

議会報告

2021年
第4号

FUKUSHI NAOHARU NEWS



地域に真っ直ぐな政治

聞く

動く

伝える

〈発行〉ふくし直治 事務所

〒030-1502 青森県東津軽郡今別町大字今別字今別144-2

福士直治 プロフィール

PROFILE

学歴

平成元年 青森県立青森北高等学校卒業(20回生)
平成5年 東北工業大学土木工学科卒業(23回生)

議員歴

平成21年10月~31年3月 今別町議会議員 3期
平成31年 4月 青森県議会議員 初当選

家族構成 妻と子供2人

重点テーマ

1次産業の振興

安心安全な地域づくり

地域医療・福祉の充実

新産業の育成

観光産業による地域活性化

聞く・動く・伝える

聞く…私たちの地域に住む人、働く人の思いを直接聞いて政治活動に活かします。
動く…皆さんの声を受け止め県政に訴え問題解決のために誠意をもって行動します。
伝える…地域の声は県政へ、県からの声は皆さんへ私が必ず伝えます。

ご挨拶

日頃、私の政治活動に対しご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

多くの県民がコロナウイルス感染拡大防止のため、様々な努力を重ね、またご不便な生活をなさっている事と思います。本県におきましてもワクチン接種が始まりましたがワクチンが足りず、特に都市部では予約も取れないのが現状のようです。

多くの方が待ち望んでいた2020東京オリン

ピックも、コロナウイルス感染症対策によって規模縮小や無観客などの非常に厳しい制限下での開催となりました。しかし、私達はこのような環境の中でも、県民一丸となってコロナウイルスに負けず、前進していかなければなりません。

私も微力ではありますが、地域の想いを県政に届け、皆様が安全安心な生活を送れるよう努力していきますので引き続きよろしくお願ひします。

青森県議会議員 福士 直治

01 陸奥湾における ナマコ漁業の 振興について

Q
福士

陸奥湾におけるナマコ漁業の振興に向けて、県はどのように取り組んで行くのか伺う。

A
県

ナマコ漁業を持続的なものにするため、禁漁期間の設定や小型ナマコの再放流など資源管理の遵守を指導している。また、湾内7漁協にナマコの種苗を供給し、放流にあたっては県が技術指導を行っている。今後は、漁協が安定して種苗を生産できるように、種苗生産技術の確立と、稚ナマコの育成の場として増殖場の整備を進め、振興を図っていく。

なおはるの想い

資源管理の観点から、種苗放流等の取組みや、育成場の整備を積極的に実施することにより、漁業者の安定的な収入にも繋がることから「作り育てる漁業」を推進していく必要があると考えます。



02 漁場整備の推進について



Q
福士

漁業者の収入安定に対して、更なる漁場整備を進める必要があると考えるが、今後の津軽海峡沿岸における漁場整備の基本計画の内容について伺う。

A
県

沿岸性魚種の資源増大と生産力の向上を図るため、漁場整備の基本計画を策定し、魚礁漁場を広域的に整備することで漁業環境を創出する。また、整備後の漁場施設のモニタリング調査を行い、今後の整備計画に反映させる。

Q
福士

津軽半島の海峡沿岸における漁場整備の今後の取組について伺う。

A
県

今別町から外ヶ浜町三厩にかけての津軽海峡沿岸を対象に、令和8年度までに藻場を4ヘクタール、育成場を2ヘクタール、魚礁漁場を3ヘクタール造成する漁場整備を行う、今年度は造成予定場所の水深や海底地形などの調査を実施し、藻場などの造成工事に着手し整備を進める。

なおはるの想い

本県の水産業は、漁村の維持・発展を支える上で極めて重要であり、水産業の発展が県の「青森県型地域共生社会の実現」や経済発展に大きく寄与するものと考えています。



03 県の地域防災力の向上について

Q
福士

本県における自主防災組織の現状と、活動の活性化に向けた県の取組みについて伺う。

Q
福士

地域の防災力の実効性を高めるため、県はどのように取り組んでいくのか伺う。

A
県

本県の自主防災組織活動カバー率は令和2年4月時点で55.4パーセントと全国平均の84.3パーセント比べ低い状況にある。引き続き市町村、関係機関と連携を図り自主防災組織の設立促進や活動の活発化に努めていく

A
県

近年、災害が複雑・多様化、激甚化する中、「防災・減災」という考え方の下、「県民の命と暮らしを守る」ことを最優先に地域防災力の充実・強化に取り組んでいる。また、地域の防災活動をけん引できるリーダーの育成に取り組んでいるほか、消防団への入団促進や市町村との連携を密にしながら実効性のある地域防災体制の構築に取り組んでいきたい。

なおはるの想い

地域防災と聞いてまずは自治体消防が思い浮かぶと思いますが、地域のつながり、または地域の備えという点においては、「自主防災組織」の役割がとても大きいと考えます。



04 奥津軽いまべつ駅と青森市を繋ぐ道路の機能強化について



Q
福士

地域の防災機能を十分発揮するためにも、主要地方道今別蟹田線小国峠区間について、機能強化が必要と考えるが県の取り組み状況と今後の方針について伺う。

A
県

地元から安全で平坦化された新設ルートで整備要望を受けており、令和3年度より町と連携して勉強会を立上げ、路線全体の現状や交通事故発生状況等について情報共有しながら、道路機能の改善に繋がる有効な対策や課題を整理していく。

なおはるの想い

『道の駅いまべつ』に防災機能の向上を期待し、重点「道の駅」認定に向けた支援をしている』と答弁されているところからも「安全で平坦化された新設ルートで整備」は共通の認識と考えます。

05 県立中央病院における看護師について



Q
福士

県立中央病院では、看護師の確保・育成と、働きやすい環境づくりに向けどのように取り組んでいるのか伺う。

A
県

専門看護師等の計画的な育成制度によって、地域医療を支える人材育成に取り組んでいる。また優れた人材を確保するため、県内10の自治体病院と共同採用試験を行うほか、採用情報等広報の充実の為、SNS等を活用して病院の活動内容を発信している。
働きやすい環境づくりでは、看護師の業務負担の軽減を図るため看護補助者等の配置を拡大している。また、全職員にストレスチェックを定期的実施し、メンタルヘルスに関するサポート体制の整備や、新型コロナウイルス感染患者に対応する職員の心のケアを目的に臨床心理士による相談体制も整備した。令和3年度中には24時間保育についても開始したいと考えている。

なおはるの想い

県民最後の医療の砦として、専門性の高い医療従事者の確保・育成や安心して働き続けられる為の支援体制の構築が早急に必要と考えます。

要望活動①

小国峠について

緊急事態宣言の合間を縫って県道14号今別蟹田線の小国峠の現状と平坦化の必要性について「小国峠概要書」を作成し、衆議院会館、参議院会館を訪問しました。

青森県選出の代議士には御多忙中の中、親身になって私の説明を聞いていただきました。本当にありがとうございました。



江渡聡徳衆議院議員と



木村次郎衆議院議員と



津島淳衆議院議員と

要望活動②

津軽線の利便性向上について

青森駅から蓬田村、外ヶ浜町、今別町を通り三厩駅までを結ぶ、津軽線の利便性向上のためJR東日本へ要望に行ってきました。

JR東日本盛岡支社総務部企画室地域連携推進室の柴田室長に対応していただき、

- ①利用客の高齢化に伴う身体的負担軽減のため、跨線橋の階段を使わず蟹田駅を利用したい。
- ②医療機関への通院を考慮し、三厩駅－青森駅間の乗り換えのない直通便の時間帯見直しの2点を要望してきました。

要望には現職当時から課題解決に努力していた阿部義治前今別町長も同席していただきました。



阿部義治前今別町長と

調査活動①

今別分署新築移転

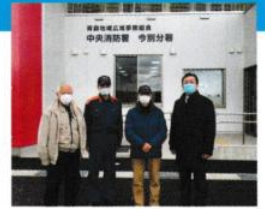
念願の青森地域広域事務組合中央消防署今別分署が完成しました。

旧分署の建物は老朽化が激しく、敷地も狭いため必要な器具や訓練場所も設置できず不便でありましたが、令和2年10月に国道280号今別バイパス沿いで交通アクセスの良い好立地に新築移転されました。

そこで長きにわたり、今別分署の新築に尽力された元町長の熊谷範一氏、阿部義治氏と共に施設調査をしてきました。

小鹿分署長の説明を受けながら最新の設備と、迅速な行動に配慮された庁舎を見学してきました。同席したお二人も感無量の様子でした。

施設が新しくなったせいか、消防車両の老朽化が目につきました。今後の課題ですね。



熊谷範一元今別町長、阿部義治前今別町長と



調査活動②

第2青函トンネル構想

千代の富士の故郷としても知られる北海道福島町は今別町と同じく青函トンネル工事で賑わった町です。

そこで「第2青函トンネル構想を実現する会」が設立されたことを聞き、会長である鳴海清春福島町長にお話を聞きに伺いました。

新幹線が最高性能を発揮する為、地域振興や北海道経済の発展の為には第2青函トンネルが有効であるとの趣旨から設立に至ったとの事でした。

今別町も同様であり、私も地域の皆さんの意見を聞きながら地域発展の起爆剤となりえるこの運動に今後も注視していきたいと思ひます。



会長の鳴海清春福島町長、阿部義治前今別町長と

編集後記

第4号となります今回の議会広報は第305回定例会と要望活動が主な掲載内容となりました。昨年から続く新型コロナウイルス感染症によって、私達県議会議員もまた調査活動や委員会活動、報告会等の活動が制限されています。しかし、適切な感染症対策を

して少しでも地域の声を届けるように、今後も「聞く・動く・伝える」を信条とし、皆様と共に進んでいきたいと思ひます。最後まで読んでいただきありがとうございます。ありがとうございました。